



坂城町の身近な話題をお届けします。

= 「大望橋」開通への歩み =

昭和37年(1962年)4月、中之条地区に統合中学校が完成すると、村上地区の中学生約200人は千曲川下流の昭和橋を経由し約4km以上も通うこととなった。

坂城町と村上村の合併条件の一つに、坂城町中之条と村上村網掛を結ぶ橋を新設することとなっていたため、昭和38年(1963年)に中学生の通学橋として県に占用申請を行い許可がされた。

大望橋は、昭和38年(1963年)12月28日に起工し、千曲川の川幅約500mのうち、本流の網掛よりの約100mに幅2.6mの橋が昭和39年(1964年)6月12日竣工した。河原の取り付け道路は、坂城中学校生徒約900人の勤労奉仕によって完成した。

橋の名付け親は、名譽町民の鈴木直三氏で、ウィリアム・クラーク博士の「少年よ大志を抱け」にあやかり、通学生徒が立派な社会人となるようにと祈りを込めて名付けられた。

昭和46年(1971年)、昭和57年(1982年)、平成3年(1991年)の災害により取り付け木造橋が流失し、その都度災害復旧工事により永久橋が1連ずつ延長され、中州に降りる形で復旧された。

平成10年度(1998年度)に、橋脚を1基施工し、大望橋の橋脚8基が全て完成し、平成11年度(1999年度)に、上部工2連を施工し、橋の上部工9連が全て完成した。

平成12年(2000年)3月、大望橋の36年間に及ぶ、千曲川に架かる約465mの橋の工事が全て竣工し、「大望橋」は全面開通した。

この橋が、子どもたちの未来へつながる橋となることを願う。
(星 哲夫)



冬の朝、白い息がふわりと空に溶けています。その淡いひとしづくが消えていく様子を眺めてみると、忙しさに追われる日々の中でも、季節は静かにけれど確かに歩みを進めているのだと感じます。

冷たい空気のなかでこそ、ふと差し込む陽だまりの温もりがありがたく、手にした温かな飲み物が胸の奥までほっと緩めてくれます。

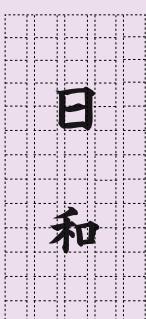
こうした小さな心地よさは、普段は気づかず通り過ぎてしまふほんの少しの小さなのですが、拾い集めてみると冬の日々が少しやわらかく見えてきます。

慌ただしい季節の中にも、深呼吸できる時間が少しずつ増えていけばいいなと思います。

「皆さまごめんなさい、この冬が穏やかな日和になりますように。」
(塙田 舞)

冬の朝、白い息がふわりと空に溶けています。その淡いひとしづくが消えていく様子を眺めてみると、忙しさに追われる日々の中でも、季節は静かにけれど確かに歩みを進めているのだと感じます。

冬の朝、白い息がふわりと空に溶けています。その淡いひとしづくが消えていく様子を眺めてみると、忙しさに追われる日々の中でも、季節は静かにけれど確かに歩みを進めているのだと感じます。



発行責任者	議長	中嶋 登
広報発行対策特別委員会	委員長	塙田 大日向進也
副委員長	星 塙田	忠靖 健誠
委員	中村 宮入	舞 哲夫
委員	星 塙田	登 進也